

中学校第1学年 保健体育科 学習構想案

日時 令和〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時

場所 〇〇中学校運動場

指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 単元構想

単元名	球技 ゴール型 サッカー		
単元の目標	(1)勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるようにする。 (2)攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (3)球技に積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。		
単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	【知識】 ①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。 ②球技の各型の各種目において用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 【技能】 ①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。 ③ボールとゴールが同時に見える場所に立つことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 ③仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。	①練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②健康・安全に留意している。
単元終了時の生徒の姿（単元のゴールの姿・期待される姿）			
仲間と協力して学習する中で、サッカー（球技）に関する理解を深め、ゴール前での攻防を展開して楽しさや喜びを味わい、日常生活でも球技をはじめスポーツに多様な関わり方をする生徒			
単元を通じた学習課題（単元の中心的な学習課題）	本単元で働かせる見方・考え方		
ボール操作とゴール前での連携した動きを仲間と高めながらサッカーを楽しもう。	サッカー（球技）の勝敗を競う楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割に着目して、ボールを操作しながらゴール前での攻防をする、ポイントや仲間の出来栄を見る、補助をしたり、仲間に助言したりして支える、サッカーの特性や名称、ポイント等を知る、といった多様な関わり方と関連付けること。		

指導計画と評価計画（10時間取扱い 本時4 / 10）			
過程	時間	学習活動（「問い」を設定しても可）	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
1	1	○オリエンテーション サッカーの特性 学習の流れ、内容、準備や片付けの確認 グルーピング、ボール操作のスキルアップ	★【知①】（学習カード） ○サッカーには、集団対集団で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえるなどの特性があることを書き出している。
2	2	○ボールを持っているときの動きを高める ① スキルアップ練習・ボール操作 ② シュート・パス・トラップ ③ シュートゲーム	★【態②】（観察） ○自分や友達の体調や練習場所の安全を確認しながら練習している。 【知②】（学習カード）
3	5	○ボールを持っているときとボールを持たないときの攻防の仕方を高める ① スキルアップ練習 ② 課題の確認と解決の練習 ボールを持っているときの操作とボールを持たないときの空間に走りこむなどの動き（2対1・3対2） ③ グリッドでの簡易ゲーム （1時間1試合ずつの交流戦）	★【態①】（観察）（学習カード） ○練習をする中で仲間と動き方を確認したり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ★【知②】（学習カード） ○サッカーでの技術の名称とそれらを身に付けるためのポイントを具体的に書いている。 ★【技①】（観察） ○ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。 ★【思①】（観察）（学習カード） ○提示された動きを参考に、仲間と練習した内容を比較しながら動きを確認している。 ★【技②】（観察） ○得点しやすい空間にいる仲間を見つけ、パスを出すことができる。 ★【思③】（観察）（学習カード） ○仲間と話し合う場面で、提示された参加の仕方に当てはめ、チームへの関わり方を見付けている。 ★【技③】（観察） ○ボールを持っている人とゴールが見える位置に移動し、ボールを受ける体制をとることができる。
4	2	○単元のまとめ（リーグ戦） ゴール前での攻防を展開して勝敗を競う楽しさや喜びを味わう ① ゲームの行い方の確認 ② チーム練習 ③ リーグ戦 ④ まとめ	★【思②】（観察）（学習カード） ○準備・片付けや審判の担当の時に、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。 【総括的な評価】 ※単元の進行に伴ってあらわれる生徒の学習状況の変化を10時間目に最終確認する。

2 単元における系統及び児童の実態

学習指導要領における該当箇所(内容, 指導事項等)		
中学校学習指導要領 体育分野 第1学年及び第2学年 E球技 球技について, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (1) 次の運動について, 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい, 球技の特性や成り立ち, 技術の名称や行い方, その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに, 基本的な技術や仲間と関連した動きでゲームを展開すること。 ア ゴール型では, ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。 (2) 攻防などの自己の課題を発見し, 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。 (3) 球技に積極的に取り組むとともに, フェアなプレイを守ろうとすること, 作戦などについての話し合いに参加しようとする, 一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする, 仲間の学習を援助しようとする, などや, 健康・安全に気を配ること。		
運動の価値		
球技(ゴール型)は, 個人やチームの能力に応じた作戦を立て, 集団対集団で勝敗を競う楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。 小学校では, 「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり, チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることを狙いとした学習に取り組んでいる。 本単元では, これらの学習を受けて, 基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて, 作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにする。		
本単元における系統		
<pre> graph TD A[小学校第5学年及び第6学年 E ボール運動 ゴール型] --> B[中学校 第1学年 E 球技 ゴール型 サッカー] B --> C[中学校 第3学年 E 球技 ゴール型 サッカー] B --> D[中学校 第2学年 E 球技 ゴール型 バasketボール] </pre>		
児童の実態(単元の目標につながる学びの実態)		
■本単元を学習するにあたって身に付けておくべき基礎・基本の定着状況		
調査内容	概ね6～8割	十分8割～
① 近くにいるフリーの見方にパスを出すことができる。		
② 相手にとられない位置でドリブルをすることができる。		
③ ボール保持者と自分の間に守備者が入らないように移動することができる。		
④ 得点しやすい場所に移動し, パスを受けてシュートなどをすることができる。		
⑤ ボール保持者とゴールの間に体を入れて守備をすることができる。		
■本単元の学習に関する意識の状況		
調査内容	概ね6～8割	十分8割～
① 保健体育の授業で, 意欲的に学習に取り組もうとしているか。		
② 課題を解決するために仲間と協力して考えながら解決しようとしているか。		
③ 考えたことを話し合いで仲間に伝えたり, アドバイスしたりしているか。		
■考察 (資質・能力に関して) 技能の状況に関しては, 習熟に大きな差があり, ボールを持っているときの動きを高める時間を十分に確保する学習が必要である。体育の授業に意欲的に取り組む生徒は多く, 自己やチームの課題を考えながら工夫して練習をする生徒も増えてきた。しかし, 自分の考えを仲間に活発に伝えたりする場面が少なく, アドバイスすることについても消極的な生徒が多い。 (学びに関して) 主体的・対話的で深い学びの視点から, 学びの状況を見ると, 意欲的に粘り強く活動をしようとする生徒は多い。仲間と考えを交流させたり, アドバイスしたりすることに課題があることから, 課題の解決の場面を工夫するとともに, 考えを交流させるように単元計画の工夫が必要である。		

3 指導に当たっての留意点(「校内研修の取組の視点」等から指導上の留意点等について明記)

- 単元終了時の生徒の姿や単元を通じた学習課題を共有して学習を進めることで生徒の主体的な学習につなげる。
- 毎時間スキルアップ練習の時間をとることにより, ボール所持の基礎的技術の習熟を図る。
- 2対1, 3対2で場面を設定した課題の練習を行うことにより, 空間に走りこむなどの動きを高められるようにする。その際, タブレットを活用して視覚的に動きを認識させることにより仲間との話し合いを活発化させる。
- アドバイスの言葉や仲間にかかる言葉を掲示し共有することで, アドバイス等をかけやすいようにする。
- 授業の途中や振り返りの場面で, 良い動きをしていたグループの動画を紹介する時間を設けるようにする。

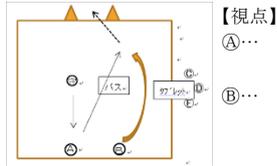
5 板書計画

球技 ゴール型 サッカー

単元全体を通した学習課題：ボール操作とゴール前での連携した動きを仲間と高めながらサッカーを楽しもう

めあて：ゴール方向に守備者がいない状況でシュートをするための動きを身に付けよう。

2対1の練習 動画を取りながら協力しよう！
 試そう 前半3人→後半3人→動画チェック
 生かそう 前半3人→後半3人 (各3分)



【視点】

①…

②…

交流戦

ルール

- 1
- 2
- 3
- 4

今日の対戦

(1) 1 A 対 2 A 3 A 対 4 A
 (-) (-)
 (2) 1 B 対 2 B 3 B 対 4 B
 (-) (-)

学習の流れ

- 1 めあて・学習内容の確認
- 2 準備運動・スキルアップ練習
- 3 2対1の練習 (グループで)
- 4 前・後半3分 互いに撮影
- 5 3人対3人ゲーム
- 6 学習のまとめ
- 7 整理運動・片付け

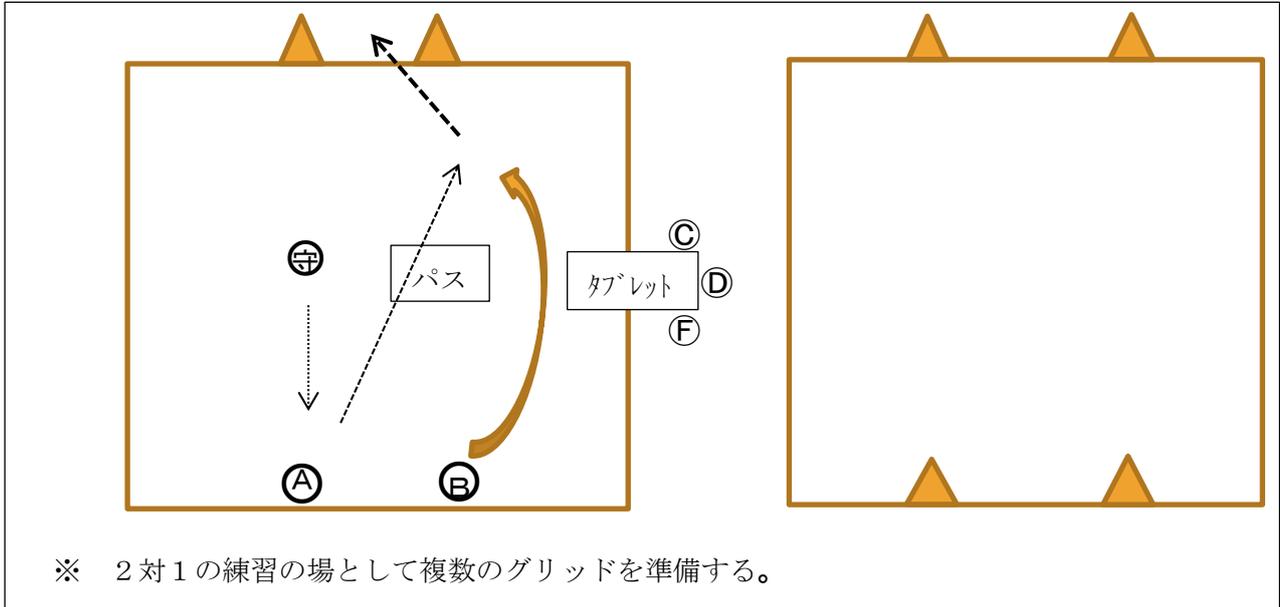
スキルアップメニュー

- 1 ボールタッチ
- 2 ドリブル
- 3 パス&ゴール 鬼回し
- 4 シュート

アドバイス言葉

- 1
- 2
- 3

6 場の設定



※ 2対1の練習の場として複数のグリッドを準備する。

7 ICTの活用計画

例：教師による課題の提示，ICTを活用して動きの確認，まとめ等の考えの共有等

例1

課題解決に向けて活動に入る段階で，課題を解決するための動きをイメージできるように動画を提示する。

例2

グループでお互いに，タブレットで撮影し，動きを確認しながら技能の習得に役立てる。

例3

よい動きができたり，手本となるような学習の進め方ができたりしたグループをまとめて紹介し次時につなげる。

8 見方・考え方を働かせて，終末や次時以降の学習に生かす計画

例1 グリッドでの簡易ゲームや終末に行うリーグ戦で，ボール操作やゴール前での攻防を展開して楽しむ。

例2 第2学年での球技・ゴール型の学習では，本単元で学んだゴール前での連携した動きをさらに高めるために，自己やチームの課題に応じた練習方法を選び，練習場面での良い取組などを仲間へ伝えたりして学習に取り組む。